

ライブラリー

散歩道

今月のテーマ

未来館20周年記念

—コロナ禍後を見据えて—



「気温が1度上がると、どうなるの？」

—地球の未来を考える 気候変動のしくみ—

文／クリスティーナ・シャルマッハー・シュライバー

絵／シュテファニー・マリアン 監修／竹内薫

訳／松永美穂

西村書店東京編集出版部

コロナ、温暖化、地域内外、国どうしの対立抗争、主導権争い等々、この地球上の各地から毎日多くの情報が発信されて来ております。この本は地球の気象に係わるさまざまな問題をイラスト入りでやさしく面白く解説しております。それぞれの“国”ではなく、それぞれの“地域”に今起きている温暖化による変化。そして私達が何の対策も取られずに行った場合の未来の地球の姿。百年後千年後の未来の人達の為に、この地球の破滅を防ぐ為に私達ができることは何か、その手だても、提案されております。

大きな地球の問題は身近なまわりの問題解決から……。できることから今すぐに。美しく楽しいイラストを見ながら、皆様もぜひ読んで、考え、地球を守って行ってください。 (W. T.)

「世界の半分、女子アクティビストになる」

ケイリン・リッチ／著 寺西のぶ子／訳
晶文社

世界には女子が半分います、その女子のために書かれた本です。女性が活躍する社会と言われていますが、何をどう始めたらいいか悩んでいる女子にはピッタリです。著者は、「今の女子はどういう不平等な扱いを受けているのか、それが草の根運動とどうつながるのか、一歩踏み出して変化を起こすにはどうすればいいのか、知ってもらいたいと思います」と述べています。

何気ない言動や行動がしらないうちに性役割を当たり前のようにしていないか、考えさせられました。無意識の偏見が長年蓄積され、はびこっているのです。女性は家事、育児、介護の方が向いているという先入観で仕事が決められたりするのもその一つかもしれません。

自分にしかできないこと好きなこと、もっと自分に自信を持ち暮らしていけたら幸せな暮らしが待っているよ、と背中を押された気持ちになりました。 (T. Y.)



「アサーティブ・コミュニケーション」

—言いたいことを「言える」人になる—

岩船展子・渋谷武子

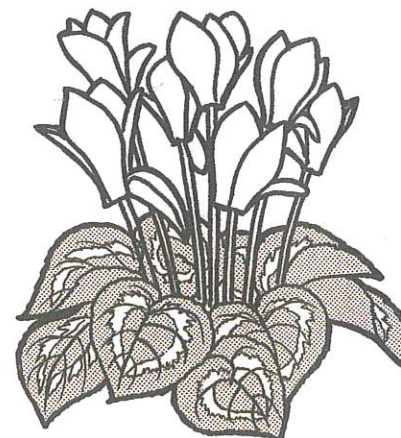
PHP エディターズ・グループ

他者とのコミュニケーションが、ハッピーコミュニケーションで出来たらなあ、と思い悩む場面に出会ったことはありませんか？

「アサーティブ・コミュニケーション」という気になるタイトルの本には、日常生活・職場・友人・恋人関係・家族・ご近所づきあいの豊富な事例を分かりやすいイラストと共に表現されています。思わずこんな場面、「あるある！」と苦笑いしながら、「なるほど納得！」と楽しく読めてしまいました。

言えそうなところから言葉にしてみようと実際に行動してみました。そこには、自分自身を尊重し相手も尊重するという、

「個人の自由と責任をともなう人権をベースにした選択肢」という考え方がありました。無理なく私にも出来そうという場面に出会えて、不思議なことに元気がもらえる読後感があります。 (S. S.)



「バリアフリーのその先へ 車いすの3.11」

朝霧裕

岩波書店

難病で24時間介護を受け、移動は電動車いすという著者に突然襲って来た3.11の震災。

本書は、その震災を機に人の「命」と「心」そして「生きること」について綴ったものです。

震災時、著者は、「動けないから逃げられない」という障害弱者であることを改めて思い知らされます。そんな中でもできる一番のことは、今日を精一杯生きることだと信じ、一念発起して東北の障害者たちの体験を聞く旅や、脱原発運動に踏み出します。

しかし、そこでも障害者差別の過酷、大きな社会的障壁という現実を知るのです。

ハード面のバリアフリーは全国的に進んだように感じますが、バリアフリーのその先、人の気付き、人との関わりから発展してゆく「心のバリアフリー」について考え、知ってもらふことの重要性や「動けない でもひとりじゃない」そんな社会にと願いながら読ませて頂いた一冊でした。 (K. M.)

「気温が1度上がると、どうなるの？」

—地球の未来を考える 気候変動のしくみ—

文／クリスティーナ・シャルマッハー・シュライバー

絵／シュテファニー・マリアン 監修／竹内薫

訳／松永美穂

西村書店東京編集出版部

毎年のように起きる豪雨災害、世界的に広がる山火事など気候変動(?)による災害が暮らしをおびやかしてきています。また、2030年までに達成をめざす17の「持続可能な開発目標 SDGs」の中の13番目に「気候変動に具体的な対策を」が盛り込まれています。

この本は気温が1度上がると何が起るのか。「気候変動」とはということなのかを豊富なイラストで幅広く紹介されていて、ページをめくるとに興味がわいてきます。イラストの色彩も目に優しい色使いです。

この本を監修された方(サイエンス作家)は、地球温暖化を食い止めるために、科学者たちのいうことに耳を傾けて、われわれ一人ひとりが、いまできることをしようと呼びかけています。ぜひ手に取って読んでほしい一冊です。

Take Action Before It's Too Late

(手遅れになる前に行動を)

(I. M.)



☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	気がつけば、終着駅	佐藤愛子	中央公論新社	2110 サ
2	信じた道の先に、花は咲く。 86歳女性科学者の日々幸せを実感する生き方	太田朋子	マガジンハウス	2110 オ
3	ドラえもんを本気でつくる	大澤正彦	PHP 研究所	2114 オ
4	「山奥ニート」やってます。	石井あらた	光文社	3210 イ
5	還暦からの底力 歴史・人・旅に学ぶ生き方	出口治明	講談社	4101 デ
6	マンション管理員オロオロ日記 当年72歳、 夫婦で住み込み、24時間苦情承ります	南野苑生	三五館シンシャ	4101 ミ
7	同性婚論争「家族」をめぐるアメリカの文化戦争	小泉明子	慶応義塾大学出版会	5204 コ
8	セクハラ・最後の人権課題 日本の状況を中心に	櫛田眞澄	ドメス出版	5209 ク
9	字のないはがき	向田邦子／原作 角田光代／文 西加奈子／絵	小学館	6108 ム
10	世界のニュースを日本人は何も知らない	谷本真由美	ワニブックス	8201 タ

利 用 ガ イ ド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

編集後記

コロナ感染がだいぶ減り、あちこちで県民割り等が始まり、いろんな方がそれぞれにお出掛けの予定等など少し愉しみな事も増えて来たのではないのでしょうか？

私もトラベルヘルパーの仕事で、先日一年九か月振りにお客様と越後湯沢温泉に行ってきた。観光はしないで、温泉をゆっくり楽しんだ旅でした。

旅は心のリハビリ、リフレッシュした新しい気持ちで、新しい年を迎えられそうだと、お帰りのお客様の顔も違っていました。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成グループ

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)